


別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第9回 宍粟市地域創生戦略委員会	
開 催 日 時	平成29年10月13日(金) 午後2時から	
開 催 場 所	宍粟市役所 3階 庁議室	
議長(委員長・会長)氏名	兵庫県立大学大学院 林 昌彦 教授	
委 員 氏 名	(出席者) 林委員長、三渡副委員長、玉田委員、岡本委員 春名委員、田口委員、山田委員、種谷委員	(欠席者) 古根川委員 長田委員
事 務 局 氏 名	企画総務部：坂根部長 地域創生課：山本課長、西川副課長、原係長	
傍 聴 人 数	0人	
会議の公開・非公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	<p>(議題及び決定事項)</p> <p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 第8回戦略委員会における論点の確認・整理について</p> <p>(2) 具体的な取組事例の紹介 ― しそう移住体験ツアー ―</p> <p>(3) 総合戦略の推進に向けたプラットフォーム(つながりの場)づくりについて</p> <p>(4) 意見交換</p> <p>4 そ の 他</p> <p>5 閉 会</p> <p>■ 決定事項</p> <p>「日本一の風景街道づくり」を柱とする地域づくりプラットフォーム体制の構築を当面の目標として、幅広く賛同者を募り、具体的な検討を進める。</p>	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認 (記名押印)	(委員長等) 	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
林委員長	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本日は、お忙しい中ご出席頂きありがとうございます。つい先日まで暑かったですが、ここへ来て一気に冷え込んできました。宍粟ではいよいよ紅葉の季節を迎えます。去年は雨が降らずに枯れてしまったように記憶していますが、今週末、適度に雨が降るようですので、今年は期待したいと思います。それと同時に自然任せではなく、人間の力で、より地域の活性化を図れるように、この委員会でも議論を深めたいと思いますし、議論の内容を庁内、更に市民へと発信できるようにして頂ければと思います。・ 前回、「この委員会の開催時間は決まっているのか。」「概ね2時間程度の会議が多いようだが、短いのではないか。」とのご意見がありました。議論を深めるためには、もう少し長くても良いのではないかとご意見かと思えます。前回は自然と延長になってしまいましたが、今回は予め30分程度の延長が予想されますのでご了承いただきたいと思えます。出来る限り効率的な運営をめざしますが、大切な部分については、しっかりと時間をかけてご議論頂ければと思います。よろしくお願ひします。
林委員長	<p>3 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none">・ それでは協議事項に先立って、資料の確認をお願いしたいと思います。以前にもお願いしましたが、事務局は事前に資料のリストを作っていただければと思います。 <p>→ 事務局より資料、議題の説明。</p> <ol style="list-style-type: none">① 会議次第② 会議録③ 第8回 宍粟市戦略委員会における課題・論点の整理④ 「宍粟市地域創生戦略委員会では何を議論するのか」⑤ 〈速報版〉第一回 しそく移住体験ツアー報告⑥ プラットフォームとは(林委員長提供)⑦ 地域力再生プラットフォームのすすめ⑧ 宍粟市「日本一の風景街道」創造事業コンセプト資料(案)⑨ タウンミーティング チラシ⑩ 宍粟市地域創生戦略委員会名簿

<p>林委員長</p>	<p>⑪ 宍粟移住体験ツアー チラシ</p> <p>⑫ 「日本酒のふるさと」パンフレット</p> <p>(1) 第8回戦略委員会における論点の確認・整理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の議事録につきましてはこの内容で確定ということですので、よろしくお願ひします。 ・ それでは先ず、「第8回 宍粟市戦略委員会における課題・論点の整理」をご覧いただければと思います。資料の中では前回の課題・論点として8項目掲載してあります。前회のご意見を突き詰めれば「この委員会での議論をさらに深彫りしていかないと、わざわざ集まって議論する意味がないのではないか。」という事だったかと思ひます。 ・ その時に問題となるのかKPIの取扱をどうするのか、ということでした。これは、国の方針として従来のやり方を変えようということ、事業を実施して終わりではなく、それに指標をつけて進行管理をして行こうというものです。それをどう使うかが問題です。恐らくこれまでの議論では、指標の数値が並んでいるだけで、非常に表面的な印象を持たれたと思ひます。 ・ 一方、こういった指標はよく健康診断に例えられます。健康診断では数字が悪いと「精密検査を受けなさい。」と言われます。「数字が悪い。」というだけでは原因が分かりませんから、原因を特定するために精密検査を受けなくてはならない訳です。 ・ KPIも同じで、指標の数値を見て全てが分かる訳ではなくて、そこで問題があるところを見つけて、更に詳しく調べていくことが大切です。「実際の現場はどうなっているのか。」ということが分かって、初めて詳しく原因を突き詰めて行けると思ひます。 ・ これまでの会議ではKPIの結果をみて「それにどう対処していくのか。」、という説明が十分に準備されていなかったところが反省点だと思ひます。また、No.3のところではKPIの指標の組替えについても触れていますが、今後はKPI以外の情報をどれだけこの場に出してもらえるかが重要です。 ・ また、No.4のところでは、今後、この委員会では何をどのように議論するのかという意見があり、これについては各委員から書面にてご提案を頂きました。個別の意見については別に綴じてありますが、要約したものが資料1枚目の裏面に記載されています。 ・ 前回の会議で発言した内容とかなり重なっていると思ひますが、人口減少問題は厄介な問題で、これに対してどのように取組んで行くかは、行政だけでなく市民を巻き込んで、市を挙げた取組にしなければならないという事です。そういった面で、宍粟市の総合戦略が市民、職員にどれだけ理解されている
-------------	--

かという、甚だ心許ない印象を受けます。行政からは「情報発信に努めます。」という回答になるのかも知れませんが、「市の広報に載せました。」「ホームページに載せました。」というだけでは、なかなか浸透しません。市が総合戦略を作ったという事は分かっていても、中身まで知らない人が多いのではないかと思います。

- ・ 先ほどタウンミーティングを開催しているという話がありましたが、その場でどういった声が出ているのか、どの程度浸透しているのか。情報発信を一生懸命しているだけではなくて、どういった形で伝えていくのが大切だと思います。それは市民の方に、いろんな取組に参加してもらって、初めて分かるのではないかと思います。
- ・ 委員の皆さんが関わりを持たれている中でも、どういった形で理解を広めることが出来るのか、ご意見をいただければと思います。
- ・ また、参画という事に関しては、玉田委員よりご意見のあった「住民自治の徹底」ということも、重要になってくると思います。市民の中に自らの問題として人口減少に向き合う人が増えれば、理解も深まるし、主体的に考える事にも繋がると思います。
- ・ 山田委員からは、総合戦略は人口減少の幅とスピードを緩和するということが重要であり、人口が減っていくという事は大前提となる中で「いかに市民の生活を成り立たせていくかが重要である。」というご意見をいただいています。その中で、若者やよそ者を増やしていく努力が必要になるという事だと思います。
- ・ 本日の資料の中で、「森林から創まる地域創生」をどのように周知しているか、ということで今年4月の広報記事をつけています。また、その後ろに総合計画の抜粋も添付していますが、人口減少対策として総合計画に掲げているのが、29ページにある「生活圏ネットワーク構想」です。人口減少問題の中で、最も恐れているのは地域の生活基盤が崩れて行く事で、行政サービスだけでなく、ガソリンスタンドや買い物の場、交通の不便など、こういった事が既に起こり始めています。当初は民間のサービスを含めて、生活環境をどう守っていくかという事を問題意識として総合計画を策定しました。それと創生戦略は表裏一体のものなので、32ページ以降で総合戦略と重複する内容を掲載しています。
- ・ 総合戦略、総合計画の中で描いた構想が現在どうなっているか、KPIを使って現状を把握しながら、具体的に進めて行かなくてはなりません。その事もあって、本日は玉田委員より具体的な取組の事例をご紹介いただいて、それを題材に議論をして行きたいと思います。

<p>山田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここまでが前回の委員会での論点の確認・整理という事ですが、私なりの整理でもありますので、各委員からもご意見を頂ければと思います。よろしくお願いします。 ・ 先ほどご紹介頂いたとおり、私も意見を出させていただきましたが、これには今やっていることや施策を否定する意図はありません。しかし、少し視点を変えて議論をする必要があるのではないかと考えています。地域のあり方、ふるさとのあり方考えた時に、地元の人が「ここに住んで良かった。」「暮らし易い。」と思わない限り、他所から人を呼び込むのは難しいのではないかと考えています。 ・ 対外的に観光などでまちを知っていただくことも勿論大切です。しかし、一生懸命やる人達の多いうちは良いですが、多くの取組はだんだんしぼんでいって、一過性のものになってしまう可能性高いのではないかと思います。それよりも大切なのは、ここに住んでいる人達の生活の維持、向上を図ることで、それが結果的に移住者の増、人口増に繋がるのではないかと思います。 ・ KPI を一つの指標として捉える事も大切ですが、KPI ありきで既存の施策を繋ぎ合わせるとか、数値で体裁を整えるとかいうのではなく、人口減少する中でも以前と同程度の行政サービスや暮らしを維持するために何が必要かといった事を、住民が議論する必要があると思います。将来にわたって自然を守ったり、お年寄りや子ども達を守ったりといったことが可能な行政サービスや、自治の力、地域の力を育てて行くことが重要だと思います。
<p>岡本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先般、高槻市長にお話を伺う機会がありました。高槻市は高度成長期以前、5万人ぐらいの人口でしたが、そこから一気に30万人まで人口が急増したそうです。そういった地域でも、現在の一番の課題は人口減少だとおっしゃっていました。 ・ いろいろと施策の内容を教えて頂きましたが、その殆どは医療費の免除や給食の提供など、宍粟市でも取組んでいるような内容でした。そういった事を考えると、やはり今後の人口減少は避けられない状況であり、その中で「いかに住んでいる人達が楽しく暮らせるか。」という事に視点を置いて議論していくのも良いのではないかと思います。 ・ また行事などを企画する場合に、企画した役員だけが満足感で盛り上がりしてしまうといった事がよくあります。今回の地域創生に関しても、沢山の人で企画して、みんなで盛り上がるということが大切ではないでしょうか。たとえば何点か目玉となるような、市全体のビックプロジェクトがあれば、その目標達成をみんなで目指す事で、市全体が一つになれるのではないでしょう

<p>田口委員</p>	<p>か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私も住んでいる人達が幸せを感じられるような取組が大切だと思います。現状では行政と地域住民の感覚に開きがあるように感じますので、もっと住民の声を聞いていただいて、住民の生活し易い、安心出来る地域づくりを進めることが重要ではないでしょうか。
<p>種谷委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に住んでいる人が地元を愛さないといけないという事については、まさにそのとおりで、宍粟市もいろいろと工夫されていると思います。 ・ 情報発信も大切ですが、情報を求めている人には伝えようとしても、なかなか伝わらないと思いますので、まずは地域に関心を持っていただくことが大切です。そのためには、先ほどのご意見にもあったように、皆が参加者になることが大切だと思います。その中で地域おこしということで、様々な自治会や村でイベント等が開催されていますが、地域の事を分かろうとする人を増やすという意味では、そういった取組がさらに広がって行けば良いと思います。 ・ また、高校生を対象としたタウンミーティングも予定されているそうですが、先般開催した西播磨地域夢会議でも全体の参加者数の三分の一以上の高校生に参加してもらっています。大学の先生のコーディネートで西播磨地域の良いところ、それを活かしてどうやって西播磨地域に人を呼ぶか、といった議論をする訳ですが、そういった機会をつうじて高校生達も初めて地域の事を考えるようになります。普通に生活していてもなかなかそういった事を考える機会はありませんので、タウンミーティングのような場をつうじて、そんなことを考えたり、共有したりする事も大切だと思います。 ・ また前回の会議資料で転入者、転出者のアンケートがありました。地域に対するプライドについては、重要度・満足度ともに低い結果となっていました。やはりそれが転出者の傾向であると思います。極端に言えば、住んでいる人が地元を愛していたら「多少不便でも、ここに住みたい」という意識が働くと思います。対症療法的な取組も必要だとは思いますが、中長期的に見た場合、多少不便でもここに住みたい、あるいは不便さが魅力といえるような、地元を愛する心を育てる施策が重要だと思います。 ・ 宍粟市は様々な施策に積極的に取り組んでいただいていると思います。たとえば音水湖でもカヌー競技場整備などにより、本年度、学生大会の誘致に成功されました。これをきっかけに市民も加わって、地域全体でおもてなしをすれば大学生も地域のファンになってくれると思います。これまでの取組の中で、地域活性化に向けていろんな種が撒かれていると思いますので、今後の発展にも期待したいと思います。

<p>山田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先般、出張の際に実感したことですが、東京圏域への人口一極集中はまったく止まっておらず、千葉県柏市でも少し見ない間に多くのマンションが建設されています。駅前には多くの若者が溢れており、国のかけ声と現実はかけ離れていると感じました。一極集中が止まらないというよりも、国の政策自体がそのように出来ているのではないのでしょうか。 ・ そういった中で地方創生のかけ声のもと「地方で人口流出を止めてなんとかしろ。」という事で、それぞれの地域がバラバラに自分達の地域に人を呼び込むという取組をスタートしているわけですが、それでは地方創生の政策自体がいつか行き詰って、破綻してしまうのではないかと思います。 ・ 今後、人口減少が進む中で地域としても、ある程度我慢しなくてはいけない部分も出てくると思います。行政も大きな自治体と同じではなくて、住民自治に任せていく事も必要です。行政の役割としては住民の生命に関わる問題や、子育ての問題、高齢者の問題には積極的に関与して、インフラを整備していく必要があると思います。 ・ それ以外のことについては、地域の人の問題意識を持って自分達で解決していく力を身に付けられるよう、行政が仕向けていく必要があると思います。そういった取組をつうじて子ども達が自分の生まれ育った地域を「素晴らしい地域だな。」「ずっと住み続けたいな。」と思えるような意識を育てていく努力を、大人達もする必要があると思います。子ども達が大学に行っても必ず戻ってくるような、地域の素晴らしさに気づかせる教育が重要ではないでしょうか。 ・ 田舎には田舎の良さがあり、不便な中にも魅力を感じる人達はいます。便利になる事だけが良い事ではありませんので、無理をして都会の真似をする必要は無いと思いますし、KPIが宍粟市に必要な取組の実態に沿っていないのであれば、ある程度無視しても構わないと思います。
<p>三渡副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の政策のあり方については私も同感です。政策によって東京一極集中の状況を招きながら、行き詰ると地方創生のかけ声のもと、地方に責任を押し付けるというような、矛盾した方向性を感じます。 ・ どこのまちも同じだと思いますが人口減少対策としては、これといった特効薬ない中で、移住・定住を推進するためには様々な処方箋が必要になると思います。例えば商工会では、山崎の中心市街地にある商店街に息を吹き返させようとする新しい流れが生まれています。これには県の助成を頂いていますが、これまでのようにアーケードや石畳など、特定の目的に対する助成ではなく、継続的な活動に対してご支援を頂いています。 ・ 具体的には空き家の活用に向けて、株式会社を立上げ、そこが所有者から空

<p>林委員長</p>	<p>き家を借り受けてリフォームした後、新たな経営者に入っていただくという ような取組もスタートしています。また、昔から山崎の夏の風物詩であった 土曜夜店も開催されなくなって久しいところですが、今年約 10 年ぶりに地域 住民の手によって復活しました。明日はその勢いをかって、商店街に灯籠を 灯すイベントを開催します。11 月には「ハイカラどおり」というイベントも 開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これらのイベントは一過性のものかも知れませんが、若い何か勢いのような ものを感じます。夜に中央通商店街を歩いていると若い人たちが角先で、今 度のイベントについて語り合っている場面に出くわしたりします。角先でや ることで人が集まりだしたり、串カツ屋をやりたいという人が現れたり、そ んな変化が生まれ始めていると思います。小さな事かもしれませんが、そん な変化が沢山芽生えてくるのが大切だと思います。 ・ また商工会の取組としてはジャンプアップ宍粟と題して、高校生や大学生を 対象とした就職の合同企業説明会を開催しています。毎年、参加者の中から 何人かは宍粟に留まってくれています。また伊和高校、山崎高校を対象とし たインターンシップなど小さな事かもしれませんが、積み重ねの中で成果に 繋げていけるのではないかと考えています。 ・ また神戸のポートアイランドで開催される、国際フロンティアメッセにおい て、今年は宍粟から 3 社が参加しました。その会場で驚いたのは、大学生が 沢山参加していたことです。 ・ 「入るを量りて出ざるを制す」という言葉がありますが、出て行くものをど うやって留めるかというのは、小さな仕掛けの多様性が大切だと思います。 今の若い人を地域に留めるには音楽ホールやダンスホールを作れば良いとい うものではなく、高校生、大学生なりに居やすい環境づくりが大切だと思 います。自治会単位でのイベントも大切です。収穫祭的なイベントなど、そう いう場面に子ども達が参加する事も大事だと思います。 ・ イベントの効果は一過性のものかも知れませんが、間接的に人口流出を抑え る一つの要因になるかも知れないと考えています。 <p>(2) 具体的な取組事例の紹介 — しそう移住体験ツアー —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは次の議題に進みたいと思います。先ほどもご意見がありましたよう に、地域活性化対策として様々な活動が行われている中で、それらをどのよ うにつなぎ合わせていくか、という事が今後の重要なテーマになってきます。 それぞれの取組は単発かも知れませんが、それらを繋ぎ合せて活動を継続で きる組織や人を、どう作っていくかという事を考えるのがこの委員会だと思 いますし、それを実践に移していくための施策が必要になってくると思いま
-------------	--

<p>玉田委員</p>	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政は合併後、地方交付税の計算方法が変わり、国からの資金が大幅に減ってくる中で、予算規模の縮小は避けられないのが現状です。その限られた予算をどのように有効活用していくかは、行政だけでなくそれに参画する市民の組織作りなども含めて考えていく、という事を選択の根幹におかなくてはなりません。それを考えるときに、ただ机に座って考えるのではなく、現場で何が行われていて、どういった課題があって、それを解決するためには誰が、どういった協力が出来るかを考えて行く必要があります。 ・ そこで前回の会議の際に、「宍粟移住体験ツアー」のお知らせがありましたので、それを今日の会議で紹介いただきたいという事で、玉田委員に資料をご準備いただいています。それでは玉田委員よりご説明をお願いします。 ・ それでは報告も兼ねてご説明させていただきます。 ・ 「宍粟移住体験ツアー」については9月16日、17日の二日間で開催の予定でしたが、台風の影響で前日に延期の判断をして、10月7日、8日に開催しました。 ・ 申込があった人は移住に関して真剣に考えておられる方が多く、遠くは千葉県松戸市、金沢県川崎市、大阪府東大阪市などの方がいらっしゃいました。ただ日程が変わったことで、遠方の皆さんは前泊が出来なくなってしまい、延期後の参加者は兵庫県下にお住まいの方々のみとなっています。参加者は6組17名で夫婦、姉妹など家族連れの方がほとんどでした。 ・ 参加者がこのツアーを知ったきっかけとしては、神戸新聞への記事掲載とラジオ放送で認知が多い結果となりました。フェイスブックで見た人から間接的に聞かれた方もあり、SNSの力も大きいと感じました。チラシも作りましたが、チラシを見て参加された方は1人だけとなっており、紙媒体の効果の薄さを実感しました。 ・ 宍粟市の印象に関する設問では、体験前と体験後で大きな変化がみられました。体験前は「アクセス不便」が「田舎」、「農業中心」など、田舎というイメージが先行していましたが、体験後は「どういう田舎なのか。」がはっきりと認識された回答となっています。例えば「思っていたより近い」「居心地が良い田舎」「観光資源の宝庫」「大自然で子どもを育てたりするにはとても良い環境」など、マイナスの印象は、ほぼありませんでした。また「市街地と田舎の差が大きい」という回答から、山崎は田舎として捉えられていない様子が伺えます。 ・ 夕食時には先輩移住者との交流会を設けました。8時で終わる予定が1時間以上延長して皆さん真剣に話を聞いておられました。 ・ また、全体の行程をつうじて道の駅などでは野菜の安さに驚いておられたほ
-------------	--

か、イベント会場でも農産物が沢山あり、隣近所との付き合いや助け合いとあって「食べるのには困らないのではないか。」という印象を持たれた方もあったようです。

- ・ 私自身も今回のツアーをつうじて、宍粟の暮らしはとても豊かであると感じました。賃金水準など目に見えるデータとしては都市部より低いかもしれませんが、それでも生活が豊かであるという事は言えると思います。
- ・ そういった事を考えると、先ほどからの議論にあるようにシビックプライドも非常に大事で、住んでいても気づかない良さも沢山あると思いますので、タウンミーティングなどでただ座って話すだけでなく、SWOT分析などをつうじて宍粟の良さを見直し、自分達で発信していく事が重要だと思います。そうすると例えば朝来と宍粟を比べたときに、宍粟を選ぶ明確な理由が見つかるのではないかと思います。
- ・ また今回はプログラムが全般的に観光寄りになってしまった点が反省点として挙げられます。宍粟の魅力を知ってもらおうという点では良かったかも知れませんが、住みたい人にとっては地元の人との交流や空き家の見学、どんな人達が住んでいるのか、自治会組織、ゴミ出しのルールなど掘り下げて教えて欲しいという想いが強いようです。移住体験ツアーの参加者は、都市部での移住相談会に比べて、移住をかなり真剣に考えている方が多く、他の地域も回っているので、その中から選んでもらうためには、地域との交流の場をもうける必要があると感じました。
- ・ 宍粟の魅力に関する自由記入欄では「人の温かみがあり、自然が多い。」など、「癒し」というキーワードが浮かび上がってきました。移住先で重視するものとして「自然」に加えて、「子育て支援制度」の割合が高くなっており、今後の検討課題として重要になってくると考えられます。他市において行政の方の悩みを聞くと、移住や子育て支援に関してはいろんなニーズがあるので、単に要綱では当てはめて判断できないという事を話しておられました。
- ・ 最終的に自分達の市にどれだけの人が住んでくれるかを考えたときに、地元住民には支援が無くて、移住者のみに支援がある場合など、様々な課題もあるようですが、そういった制度面についても考えていく必要があると感じました。
- ・ 例えば、島根県の海士町は離島で利便性という面では非常に不利なところですが、若い人達が沢山移住しています。そういった事例も参考にしながら、宍粟市にも沢山の地域資源がありますので一つ一つのポテンシャルを高めていくことが大切だと思います。今回のツアーをつうじて、この地域はなかなか捨てたものではないというのが率直な感想です。
- ・ それと先ほどから課題として挙がっている情報発信についてですが、実際に

<p>三渡副委員長</p>	<p>宍粟市ではなかなか思うように進んでいないのが現状ではないかと思いません。先般、10月2日、3日と東京で「全国発酵のまちづくりネットワーク協議会」が開催されました。これは全国で発酵をキーワードとしたまちづくりを行っている団体の集まりで宍粟市長、企画総務部長とご一緒させて頂きました。様々な自治体の発表がありましたが、どこも宍粟と同じような状況で、人口規模も2万人とか、中には4千人の自治体もありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その中でも、各地域がそれぞれに工夫をしてプロモーションを行っておられます。本日、当日の配布資料にあったパンフレットを準備しています。見せ方などの面で非常に参考になると思いますので、ご覧頂ければと思います。 ・ 宍粟にも良い面が沢山あるとのご意見を聞いてホッとしました。 ・ 昨年、東京からUターンで帰ってきた社員の話ですが、以前の職場では年収が600万円程度あったそうです。一方、当社では年収300万円から350万円程度となります。半年ほど経ってから生活の状況を尋ねたところ「充分生活できる。」との事でした。実家に住んでいるので家賃は不要ですし、米も実家で作っている。野菜は近所からもらうという事で、収入が減っても出て行くお金が少ないので、充分生活できるとの事でした。こういった事も地域の魅力であると思います。 ・ また、大阪から宍粟に来られている企業の社長ですが、宍粟が大好きなので、地域活性化のためにいろんな手立てを何とか考えようという中で、宍粟から京阪神に出ている大学生を対象としたインターンシップを商工会と一緒に是非やりたい、というお話がありました。 ・ また、高齢者の移住作戦についても展開してはどうかという事で、こちらで空き家をピックアップしておいて欲しいとの事でした。お話を聞いて私は、60歳で定年を迎えてから移住されても、地域としては介護や医療費の負担が増えるだけではないかと思いました。しかし、その方のお話では60歳から65歳くらいの年代は、まだまだ元気で介護が必要な域には達していない。元気うちに受け入れる事で地域の消費も高まるので、トータルでどちらが得か検討する価値はある、との事でした。 ・ 先ほどから話題に挙がっている情報発信についても、インターンシップにしる高齢者の移住にしる、大阪でPRすべきとのご意見もありました。大阪から宍粟市は意外に近いですので、その利便性をもっと活かすべき、との事でした。一番良いのは若い夫婦の移住ですが、他にもそういった様々な対策を考える必要があるのではないかと感じた次第です。 <p>田口委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信については、田舎ではインターネットを使える人が少ないので、広
---------------	--

種谷委員	<p>報誌などで対応していただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ またタウンミーティングを開いても、自治会役員の責任出席が多く、一般の人が何人か参加しても、なかなか意見が言えないと思います。 ・ 紙に意見を書いて出すようにすれば良いと思います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民局でも移住体験ツアーを実施しています。移住相談センターは県民局に常設していますが、毎月1回は大阪又は神戸で出張相談を行っています。 ・ それに加えて年に3回は、20人ほどの定員でツアーを開催しています。ほぼ毎回満員で、皆さん熱心な方ばかりです。その中で、去年は16組が実際に移住されましたので、そういったブームというか、流れが来ていると思います。 ・ 参加者は主に年配の方でゆっくりしたいという方と、子どものことを考えて田舎で子育てをしたいという若い世代に分かれます。若い人は仕事を併せて紹介して欲しいという要望が多く、就職とセットで対応できる相談体制が必要です。また最後に移住を決める前に自治会長と面談の機会を設け、地域のルールを説明するところまでフォローしています。 ・ 宍粟市も県民局管内の自治体の一つにはなりますが、どうしても大阪等の出張相談会等に熱心に参加される市町に現地見学に行こうという風になりますので、そういった辺りでも小さなことかもしれませんが、工夫していただければと思います。 ・ また県民局もNPOに委託して実施しておりますので、相互に連携して実施することも考えられると思います。
林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろんなやり方があると思いますが、例えば空き家を利用して短期滞在をするような事も考えられますし、参加者のニーズに応じて選べるような形を作っていく事が大切だと思います。また、どのような形にせよ地元の人達の協力が不可欠です。
玉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民泊のような形が理想だと思います。2泊3日ぐらいで、丸1日そこで過ごしてみると地域のことが良く分かると思います。
種谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宍粟市は短期滞在の体験施設を持っているので、そういった対応もできると思います
玉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私自身、今までその事は知りませんでした。そういった情報も広く周知する必要があると思います。
林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住体験に携わる人の間で、こういった資源が活用できるかを共有できてい

<p>玉田委員</p>	<p>ないという事だと思えます。やはりそれを共有して、有効活用するツアープランを複数考えると、より参加者のニーズに沿ったツアーが実施できると思えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の経験を第2回のツアーにも活かしていく事になると思えますが、受け入れる側の組織体制も重要になると思えます。市民も参加できる実行委員会形式など、受入態勢についても工夫が必要になると思えます。 ・ 確かに実施する側が「ここに行きます。」という形で決めてしまうと、他の地域から「なんでうちに来てくれないのか。」といった声が出る事も懸念されます。地域の方から手を挙げてもらって、「うちに来て貰ったら、こんな事ができますよ。」というような提案型のツアー構成が理想だと思えます。 ・ 今回は一回延期になったことで、結果的に10月8日の石垣祭りに参加できて良かったと思えます。また、急に日程が変更になって、替わりの宿泊施設をとるのに結構苦労したのですが、その事で宍粟市の宿泊施設が思いのほか稼働している事が分かり、安心しました。
<p>三渡副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状で、宍粟市の空き家バンクの登録物件はどのくらいでしょうか。
<p>坂根企画総務部長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概ね40件以上の登録となっています。正確には後ほど確認してお知らせします。
<p>林委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は玉田委員から事例報告を頂きましたが、今後も参考となるような事例があれば関係者をこの場にお招きして、お話を伺う機会を設けたいと思えます。
<p>林委員長</p>	<p>(3) 総合戦略の推進に向けたプラットフォーム(つながりの場)づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは次の議題に進みたいと思えます。「総合戦略の推進に向けたプラットフォーム(つながりの場)づくりについて」という事です。 ・ 今回、こういった提案をさせて頂くこととなったきっかけは、本日の資料にもありますが、市の方で「日本一の風景街道づくり」の取組を進めるために、市民や事業者に参画してもらうための、仕組みや組織が必要なのではないかという相談を受けた事からスタートしています。 ・ そこで私の方からお伝えしたのは、こういった取組を有効なものとするためには、従来の行政の発想とは違う考え方が必要になりますので、その事に注意を払わなくてははいけませんという事です。ここではその点も含めて議論を深めていければと思えます。

- ・ 資料としては私の方で作成した「プラットフォームとは」というタイトルのものと、京都府が作成している「地域力再生プラットフォームのすすめ」というタイトルのものです。京都府の資料をご紹介しているのは、これを真似すれば良い、という意味ではありません。いろんな取組を進めるためにルールが必要ですが、そのルールを行政が一方的に決めてしまうのではなくて、そこに関わる参加者自身が作っていくことが大切だということをお示しするためものです。
- ・ 京都府の資料の一枚めくったところに、プラットフォームとは何かという事が書かれています。これはよく言われるとおり、駅のプラットフォームのイメージです。これを行政が使う場合、様々な主体が相互に連携・協力して取組を進めるための環境づくりとか、基盤整備という意味合いで捉えることが多いです。
- ・ 市民を中心とする、さまざまな活動を下支えするための仕組づくりであり、そこには行政単独の施策の進め方とは違う発想が必要だという問題意識です。何か新しいことをやろうとしたときに、アイデアは簡単には出てきません。例えば机に座ってアイデアを出せといわれても、インターネットで先進事例を調べる程度です。そうではなくて、地域の中で何が起きていて、何が利用できるのか、それを活かしてどのような取組が出来るのかを考えるために、既に地域の現場で活動されている方がいらっしゃるので、その人達と一緒に考えて行こうという事です。
- ・ またそういった方々は、往々にしてそれぞればらばらに活動している事が多いですから、そこを繋げていってお互いに協力し合える場を作っていく、そんな組織がプラットフォームだと思って頂ければと思います。行政単独で計画を作って進めるということではなくて、いろんな個人、団体が一緒になって施策を進めていくという事です。パートナーシップとか協働とか、いろいろな言葉で紹介されますが、例えば行政職員もそこに参加して、現場の実情を理解しながら、そこでの議論を行政単独の施策にも反映したり、そういった事が出来る場づくりが大切です。また議論するだけではなくて、こういうことをやってみようという事で、実際に事業が立ち上がっていくような仕組も必要です。
- ・ 京都府の場合は財政的な支援もセットになっているようですが、補助金が前面に出ると、それを獲得することが目的になりがちなので注意が必要です。まずは有効な事業プランを作り出す土壌を作るという事が大切です。プラットフォームはそれ自体が事業を実施する主体というよりも、農業でいうところ土づくりに相当すると思って頂ければ結構です。
- ・ そのプラットフォームの上で様々な個人、団体、組織はどのような関わりを持つのか。その関わり方を示すのが「ネットワーク」という考え方です。ネ

ネットワークのイメージは私が作成した資料の裏面に記載しています。ネットワークも組織ですが、一般に組織というと左側にあるようなピラミッド型のものをイメージしがちです。ピラミッド型の組織の基本となるのは縦の関係であり、個々の主体は権限と責任によって結ばれています。ですので、予め決められた事を進めていくという場合には効率的な組織運営が可能ですが反面、個々の主体性は発揮し難くなります。

- ・ それとは異なり、ネットワークは右側の図のように個々が主体的に動きながら、相互につながりを持っているような関係です。ネットワークのイメージは、インターネットを想像して頂くと分かり易いと思います。インターネットは既に組織の中にあつたネットワーク同士を繋ぐネットワークの事を指しますが、右の図にあるように個々の点がその中で小さなネットワークを形成していて、それが入れ子になっているというイメージです。
- ・ 宍粟市の中にも、既に地域づくりに関するネットワークは存在します。商工会やNPO、自治会や各種団体などがそれに該当します。今から作ろうとするネットワークはそれを変えるものではなく、既存のネットワークとネットワークを繋ぐことで、相互連携を作り出そうとするものです。
- ・ ネットの意味は網ですので、何か中心になる存在があつてそこに繋がっているというよりは、個々の主体が対等に様々な繋がりを持っていて、それが刻々と変化していくようなイメージです。後から新しくネットワークに参加する主体もあるし、逆に退出するケースもあり得ます。
- ・ 繋がり方も太い繋がりであつたり、細い繋がりであつたり、非常に流動的なものです。その中では行政も一つの主体となります。しばしば民間が行政の下請けになっているのではないかと指摘される事もありますが、多様な主体が関わる中で、大きな主体もあれば小さな主体もあります。
- ・ お金という面では、行政は他と比べて大きなお金を持っているので、行政を中心と捉えがちですが、そうすると本来目指すべき趣旨とは異なってしまいます。その辺りはよくよく注意しないと、従来どおりの意識で進めると失敗します。市長が関係者に呼びかけて「何月何日に設立総会をするので、集まってください。」というやり方では、なかなか個々の主体性が発揮されません。
- ・ 従来行政では、計画を立てると「年度内にここまで進めなくてはならない。」という意識で取組を進めるのが一般的です。成果が求められますので「いつになったら出来る？」という事も当然問われるわけです。
- ・ しかし、今後プラットフォームづくりを進める上では、まずは趣旨に賛同する主体に集まってもらって、その中からみんなで取組を進めようとする合意形成が出来て、そこからどういう運営をするかというルールを作っていくというプロセスが大切です。
- ・ 京都府の資料の中で、3枚目に運営のポイントがいくつか挙げられています。

<p>三渡副委員長</p>	<p>最初に「協働」という事が書かれていますが、民間と行政が事業の企画段階から協働することが「参画」です。行政と民間の関わりの中では、既に決まったことに対して「ご協力をお願いします。」という風になりがちですが、ここでは何をやるかというところから、一緒に考える組織体制というものが重要になってきます。そこで合意が出来たものを、実行に移していくという事です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「そんな理想ばかり。」と思われるかも知れませんが、最初にボタンを掛け違えると後から必ず影響が出ます。まず始めに、どういう組織を作るかしっかり議論して欲しいと思いますし、この場でも議論していきたいというのが私からの問題提起です。 ・ それでは事務局より、「日本一の風景街道づくり」を推進しようとする背景なり、考え方についてご説明をお願いします。 <p>▶ 事務局より「日本一の風景街道」創造事業コンセプト資料の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「風景街道づくり」に関して言うと、南北に42キロある地形を強みとして捉えて、今年度、観光協会では「しそ秋物語」という取組を実践しようとしています。これは今まで個々の地域でやっていた「もみじ祭り」を市全体で統一しようとするもので、これまで千種ではもみじ祭りはありませんでしたが、千種でも高原でやって頂いて、市全体として一体的な取組を進めようとしています。その事によって、北から南に下ってくる紅葉を1ヶ月間楽しめる地域として、付加価値を高められるのではないかと考えています。 ・ また、この考え方を応用すると春の桜のシーズンにも活用出来ると思いますので、春には春物語として展開して行きたいと思います。地域の中にどっぷり浸かっているとあまり気づかない事ですが、紅葉や桜が1ヶ月間楽しめるというのは、当地域の大きな強みだと思いますので、そういった意味でも風景街道の取組を是非進めてもらいたいと思います。 ・ また先ほどからサポーター、プレイヤー、プロジェクトというお話がありますが、例えば波賀町の飯見や染河内の山田、福田のように自治会がプレイヤーとなって、田舎であっても人を呼べる地域があります。ただ地域によっては取組の度合いに大きな差がありますし、例えば千種の方は波賀や一宮の事例を知らない、といった事もありますので、成功事例を発表するような場を作って、それぞれの気持ちに火をつけて回るということも重要だと思います。 ・ ゼロから取組を立ち上げるのは難しいですが、真似をしながらやる事は比較的容易に出来ると思います。そのようにして多くの自治会で取組を進めることが出来れば、宍粟市の風景街道としての価値も高まると思います。大変だと思いますが、事例発表の場づくりをお願いしたいと思います。
---------------	--

岡本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私達の会社でも、工場内の合理化を進める上で自分達だけで完結するとそれで終わりですが、年に1回、合理化の発表会を開いてそれを共有するようにしています。そうすると良い点は真似をして、自分の工場に取り入れることが出来ますので、そのような取組を市全体でやられると良いと思います。
林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局から示されたイメージ図ではサポーター、プレイヤー、顧客の役割が固定的なもののように見えますが、顧客がプレイヤーになったり、サポーターがプレイヤーになったりという事もあり得ます。理想としては各主体の立ち位置は非常に流動的で、その事によって新たな発想に繋がるという事が大切ですので、その辺りの表現を少し工夫して頂ければと思います。 ・ また、全体調整をどのようにするかは非常に重要な問題ですが、行政がここは担うと決め付けてしまうのも少し違うような気がします。確かに行政が呼びかけるので最初はそのようになるのかも知れませんが、将来にわたって行政がここに居続けるというのも、趣旨が違ってくるとおもいますので、その辺りも誤解の無いように注意して頂ければと思います。
春名委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワークづくりに関して、私たちも NPO 活動の中で行政の皆さんに呼びかける事がありますが、やはり上から目線というか、少し事務的な印象を受けます。行政職員の方も一市民としての立場をお持ちですし、若くて優秀な方も沢山いらっしゃいます。民間だけは地域づくりを進める上で人材の確保に大きな課題がありますので、対等な立場で膝を突き合わせて一緒に活動に参加して頂けたら、市全体がより良い方向に進むのではないかと考えています。
林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 是非、若い人達、例えば高校生などもこのプラットフォームに参加してもらって、そういった経験が有るのと無いのでは将来的な定住意識も変わってくると思いますので、そういったところも巻き込んで進めてもらえればと思います。
春名委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアを育むという意味でも、中高生が地域づくりに参加する事は大切だと思います。地域づくりを進める中では「これをやったらいくら貰えるの？」という声が聞かれることもあります。地域づくりは儲けだけでは出来ませんので、若いうちにそういった経験を積んでもらうという事も大切だと思います。 ・ また、行政の皆さんにも一緒に参加して頂く事で地域のリアルな声が聞けるとと思います。タウンミーティングでは表面的な意見しか出ないと思いますの

林委員長	<p>で、是非、こういった場で現場の実態を掴んで頂ければと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは方向性としては、この方向で進めていくという事でよろしくお願ひします。後はこれをどう具体化していくかですが、重ね重ねお願ひしたいのは、例えば「年度内に絶対立ち上げる。」というような予定が先行して、十分な合意形成が出来ないまま、呼ばれて行ったらそこが設立総会だった、というような事の無いようにお願ひします。
春名委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜネットワークづくりが必要かという事を、理解していただく事から始めていければ良いと思います。
三渡副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば庄能自治会では 16 年程前から、みずまつりという盆踊りを開催しています。その中で 5 年生以上の子供達に太鼓を叩かせるのですが、そうするとその子供達が成長して新たな担い手になっています。そのように、子どもの頃から地域づくりに参画する事で、世代を超えて地域の担い手育成に繋がると思いますので、そういった手法も組み込むと面白いと思います。
林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何か組織が出来たらそれが完成ではなくて、活動を続けていくために次の世代を生み出す仕組みも必要という事だと思います。 ・ また活動を進めるためにはお金も必要ですし、その点で行政の役割も大切です。ただ金さえ出せば良いという事では有りませんし、お金を出したから何か特別な権限をもって関与していくという事も望ましくないと思いますので、あくまで他のプレイヤーと横並びでやっていただければと思います。そういった意識を共有するためにも、行政の中でも勉強会をやっていただけると良いと思います。 ・ また市民の中にも、行政のやり方は時間が掛かり過ぎる等の不満を持たれている方もいると思いますので、その辺りも十分なコミュニケーションをとって相互理解を進めていけば、次の事業展開にも繋がっていくと思います。是非、この委員会の皆さんにも何らかの形でご協力をいただければと思います。 ・ それではこの件については地域への呼びかけを行い、賛同者を募って、当面の目標として発足に向けて検討を進めて頂くという事でよろしくお願ひします。
林委員長	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、次回開催日程についてはどのような予定でしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議で基本的に、年間 2 回の開催予定という事でお話をしておりまし

林委員長	<p>たが、本日ご議論いただいたプラットフォームづくり等に関しても別途ご相談をさせて頂く必要があると思いますので、後日、日程調整をさせて頂いた上でご案内させて頂きたいと思います。よろしくお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ早く案内して頂いて、事前に会議資料に目をとおしていただけるよう、段取りをよろしくお願いします。他に何かこれだけは言いたいという事はございますでしょうか。
坂根企画総務部長	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど種谷委員からもお話いただいた音水湖の関係で、これまで50年以上にわたって琵琶湖で開催されていた関西学生カヌー選手権大会を、今年は音水湖で開催していただくことが出来ました。横風の影響を受けにくいという事で、選手の評判も非常に良く、来年は全日本ジュニアチームの海外派遣に向けた最終選考会を音水湖で開催したいというお話も伺っています。地域の皆さまに誇りを持っていただき、地域のファンをつくるという意味においても今後とも県民局と連携して、条件整備を進めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。
林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で取り組んで頂ければ、様々な効果が期待できると思います。よろしくお願いします。それでは以上で本日の委員会を閉会いたします。
三渡副委員長	<p>5 閉 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議録の中で私から「本の目次だけ読んでいるような会議である。もっと議論の深掘りをしましょう。」という趣旨の発言をさせて頂いて、本日の会議に繋がっていると思います。本日は、いろんな場面でそれぞれのお立場から深掘りのご意見を頂けたと思います。 ・本日の会議では経済的なことは議題に上りませんでした。先日、太子町と福崎町へ行く機会があり、ロードサイドのお店がずいぶん多くあるのを見してきました。宍粟市全体では太子町、福崎町より人口が多いですが、なぜこうもお店の数が違うのかという事を考えると、昼間の人口と夜の人口の違いではないかと考えています。宍粟では多くの人々が毎日、姫路やたつのへ出稼ぎに行っているような状況ですので、昼間の人口はどうしても少なくなってしまいます。経済活動を考える上では昼間の人口がとても大切ですので、今後、その辺りについても議論を進めていければと思います。本日はどうもありがとうございました。 <p style="text-align: right;">以下余白</p>